

「ワンヘルス」に関連する国際的な動向等

1. ワンヘルスとは

加速度的に進む環境の変化や急速な世界人口の増加への対応が迫られる中で、比較的最近提唱された用語。健康管理について以前から広く認識されていた事項を再概念化するもので、ヒトの健康、動物の健康、環境の健全性はどれが欠けても成立しないとして、これら3つの衛生（健康・健全性）の達成に統合的に取り組むことを提案している。ⁱ

国際的には2004年の国際シンポジウムで提唱されたマンハッタン原則を端緒とし（Box）、2008年のFAO、WHO、及びOIE（国際獣疫事務局）の間の三者合意や、2012年のワンヘルス・アプローチの経済性に関する世界銀行の報告ⁱⁱといった国際的な動きを受けて公衆衛生及び家畜衛生において重視されるようになっており、食の安全、共通感染症、薬剤耐性の分野での適用が進んでいる。ⁱⁱⁱ

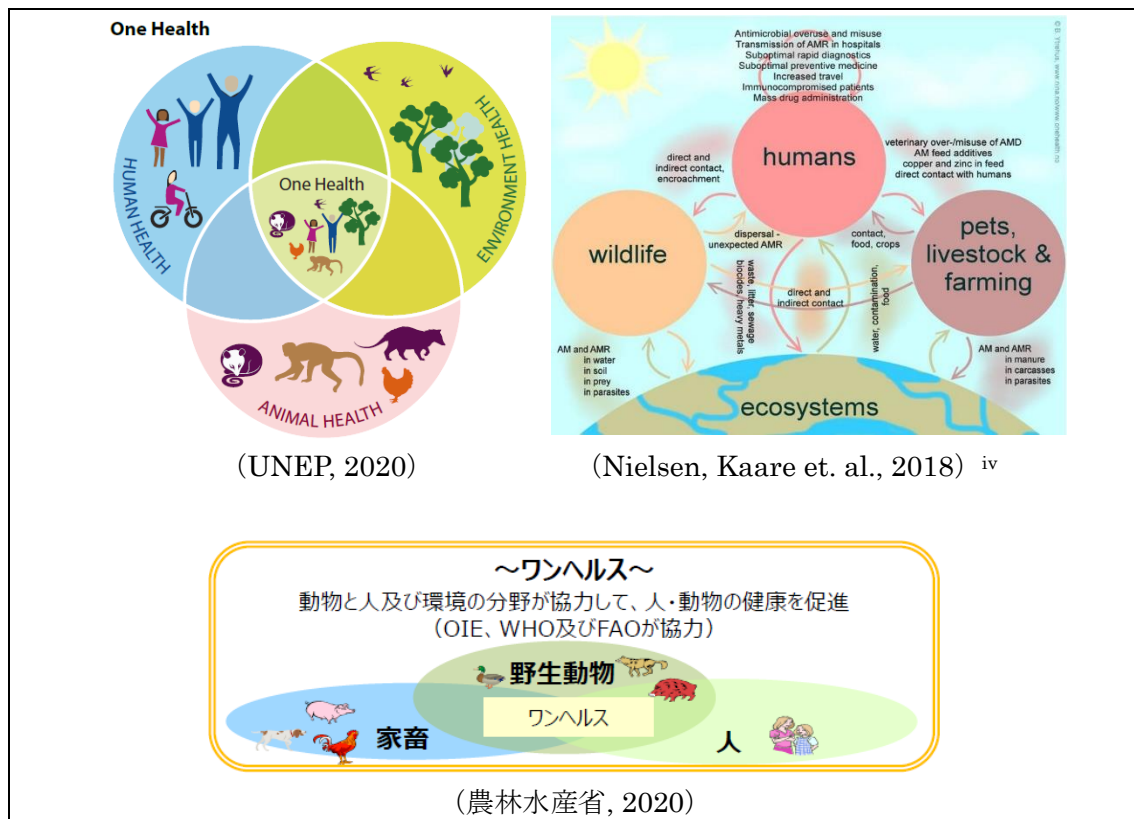


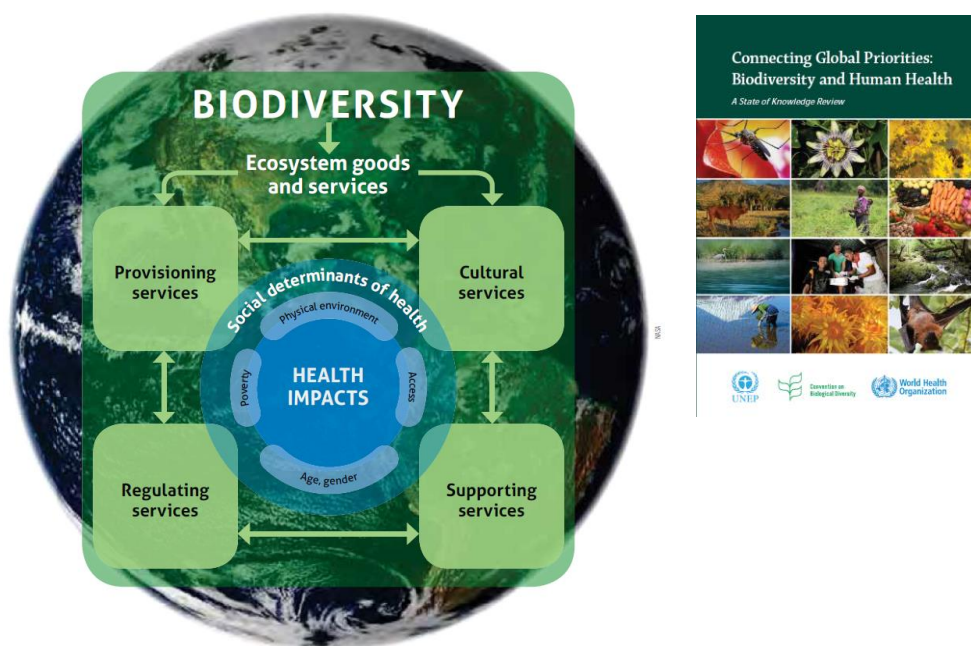
図 様々に描かれるワンヘルス

こうした状況もあり、ワンヘルスについては国際的に統一された定義はなく、様々な主体がそれぞれの文脈にそった説明を行っている：

- ・公衆衛生上より望ましい成果を達成するために、複数のセクターが意思疎通・連携する事業、政策、法令及び研究を企画・設計及び実施するためのアプローチ（食の安全、人と動物の共通感染症、抗生物質耐性対策などの分野で特に関連性が高い）（WHO）^v

- ・人間－動物－環境が共通する問題にまたがって、関連するセクターや学問分野が衛生・健康問題に連携して取り組むことにより、連携しなかった場合よりも効果的、効率的または持続可能性を向上させるようなアプローチ。ワンヘルス・アプローチを採用することにより、連携主体間の調和や衡平性も担保される。(FAO、OIE、WHO) vi
- ・ヒト、動物、環境等の複雑な相互作用によって生じる感染症の対策に、公衆衛生、動物衛生等の関係者が連携し、一体となって対応しようとする概念(厚生労働省) vii
- ・動物と人及び環境の分野が協力して、人・動物の健康を促進(農林水産省) viii
- ・人の健康、動物の健康及び環境セクターを統合するアプローチix
- ・人の健康と動物、環境は密接不可分であることを認識することにより、パンデミック等の重要な健康上の課題を追跡するためのシステムであり、そうした課題の根源的な原因に対処するためのこれら3つのセクターの取組を活用するもの ix

ワンヘルスのもう1つの柱ともいえる環境衛生(生態系の健全性)で目立った進展がみられない中x、CBDは、2015年にWHOと協力して生物多様性と人の健康に関する最新知識を取りまとめたほかxi、2017年にはワンヘルスのアプローチに生物多様性配慮を組込むための手引きxを策定するなど、ワンヘルスの適用にあたって、生物多様性と健康の相互関係が十分に認識されることで社会・生態システムのレジリエンスが強化されるという、健康管理の上流における予防措置としての生物多様性保全への関心を高めるための取組を進めている。



図：相互に依存する生物多様性と人の健康の関係 (CBD, WHO、2015)

2. CBDにおける健康、ワンヘルスの扱い

ミレニアム生態系サービス評価等を契機に、主に保健セクターにおける生物多様性配慮の主流化の観点を中心に、WHO との連携・協力が継続している。

新型コロナウイルスによるパンデミックの影響でポスト 2020 枠組の策定プロセスが遅れる中、9月に公表された GBO5 では、持続可能な道を歩むために必要な 8 つの移行分野の 1 つとして「生物多様性を含むワンヘルス」が掲げられたほか、12月15日から16日にかけて SBSTTA-24 と SBI-3 が合同で生物多様性、ワンヘルス及び新型コロナウイルス感染症に関するバーチャル会合を開催するなど、ワンヘルスを含む、生物多様性と人の健康の間のつながりへの関心が高まっている。



- ・農地や都市を含む生態系、および野生生物の利用を統合的なアプローチにより管理することで、健全な生態系と人の健康を増進
- ・生態系と人の健康の関係性を認識し、生物多様性の損失や疾病リスクと健康障害に共通する原因に対処

GBO5 の「生物多様性を含むワンヘルス」

(1) COP 決定における人の健康への言及

ミレニアム生態系サービス評価を機に人の健康についての言及がみられるようになった（下表）。

COP8 (2006)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミレニアム生態系サービス評価の報告書を歓迎する中で、生態系と人間の福利に関する健康に関するテーマ別報告書^{xiii}にも言及（決定 VIII/9） ・高病原性鳥インフルエンザの野生生物への潜在的影響に関する会合の開催経験を踏まえ、条約の実施に影響を与えるような事態が今後生じた場合には事務局長に協議等の開始を求めるよう締約国に招請（決定 VIII/32）。
COP9 (2008)	<ul style="list-style-type: none"> ・WHO との連携継続を要請（決定 IX/27）
COP10 (2010)	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略計画 2011-2020 のビジョンで「健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」世界に言及しているほか、愛知目標 14 で生態系サービスによる人の健康への貢献に言及（決定 X/2）。 ・戦略計画 2011-2020 の実施が世界の健康問題にどのように貢献できるかを調査し、各国の保健戦略における生物多様性配慮の促進につなげるよう、事務局長に要請（決定 X/20）。
COP11 (2012)	<ul style="list-style-type: none"> ・WHO との合同作業計画の設置を要請（決定 XI/6）
COP12 (2014)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性と人の健康」のタイトルで独立した決定採択。ワンヘルス・アプローチの有用性を認識するとともに、WHO との合同作業計画を正式に設置（決定 XII/21）
COP13 (2016)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の主流化の議題で公衆衛生分野における主流化を COP14 で取り上げることを決定（決定 XIII/3） ・決定 XIII/6：生物多様性と人の健康に関する最新知識のレビュー公表
COP14 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワンヘルス・アプローチへの生物多様性配慮の組込みに関する手引き」

を歓迎。ワンヘルス政策等の統合的アプローチ ¹ を生物多様性国家戦略及び行動計画等に組み込むように締約国等に招請（決定 14/4）
--

（２）ポスト 2020 枠組（案）における扱い

ゼロドラフトの更新版において、ワンヘルスに通じる表現は 2050 年ビジョンで登場しているほか、4 つの行動ターゲットが人の健康に直接言及している。

○2050 年ビジョン

現行戦略計画の表現を踏襲（「2050 年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、そのことによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」世界）。

○行動ターゲット

- ・ターゲット 6：生物多様性、生態系の機能、人の健康に有害でない水準まで汚染を低減
- ・ターゲット 8：野生生物種の持続可能な管理により、栄養、食糧安全保障、生計、健康、福利などにおける人への便益を確保
- ・ターゲット 11：都市部での緑地・親水地へのアクセス改善などにより、健康や福利の面における生物多様性の便益を増進
- ・ターゲット 16：バイオ技術が生物多様性や人の健康に与える潜在的な悪影響を低減

3. IPBES の生物多様性とパンデミックに関するワークショップの報告書^xでの扱い

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム（IPBES）は、新型コロナウイルスによるパンデミックの発生を受け、パンデミックの起源とその出現・管理・予防についての科学的根拠を点検するためのワークショップを 9 月に開催し、22 名の専門家がワンヘルス・アプローチに基づくパンデミックの予防などについて議論した。

ワークショップの報告書では、土地利用変化などの抑制とワンヘルスに基づくサーベイランスの増強などによりパンデミックの発生を防止するコストは、パンデミックによって発生するコストに比べてはるかに小さいことを指摘した上で、各国によるワンヘルスの制度化やワンヘルス関連の学術研究支援等を勧告している。

¹ ワンヘルスに類似する統合的、学際的かつ横断的アプローチとしては、エコシステムアプローチの原則に立脚して生態系の健全性と人間の健康及び社会正義との間の密接な関連性に注目し、生物的な環境、物理的な環境、社会的な環境及び経済的な環境が人の健康状態に影響するのかを考える、エコヘルス（Ecohealth）がある。このほか、最も新しい用語としては、生物的な構成要素や非生物的な構成要素と人間の健康状態との間の相互作用を考慮するプラネタリー・ヘルス（Planetary Health）がある。この概念は広義には、「人類の将来を形作る政治的、経済的、社会的な人間システムと、人類が繁栄できる安全な環境容量を定義する地球の自然システムに十分な注意を払うことで、最高水準の健康、福祉、公平性を達成すること」と定義され、エコシステムアプローチや GBO³ で言及されている転換点（tipping point）、プラネタリーバウンダリー^{iv}の概念とも整合する。

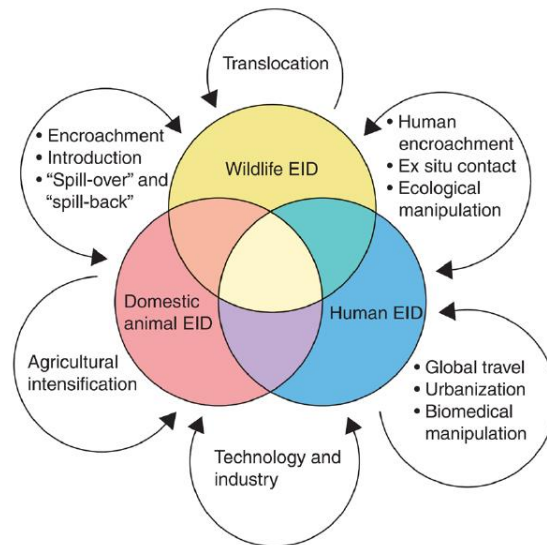


図 人為的な要因による野生生物、家畜及び人における新興感染症(EID)発生の仕組み。
 生物多様性損失の要因でもある世界的な環境の変化はこうした要因の1つ
 (IPBES, 2020)

Box : “One World, One Health” に関するマンハッタン原則 (2004年9月) ^{xiii}

WHO、FAO、米国疾病管理予防センター、米国地質調査所国立野生動物保健センター、米国農務省、カナダ共同野生動物保健センター、コンゴ共和国ブラザビル公衆衛生国立研究所、IUCN 環境法委員会、WCS 等からの専門家が参加したヒトと動物と野生動物の感染症の現状と感染拡大の可能性に関する国際シンポジウムの成果物。

西ナイル熱、エボラ出血熱、SARS、サル痘、狂牛病、鳥インフルエンザの発生を踏まえ、グローバル化した世界における健康に対する学際的・横断的な連携を実現するべく、以下を含む 12 項目の提言を掲げるとともに、ワンヘルスの用語を国際レベルで初めて示したとされる。

- ・人間、家畜および野生生物の健康と疾病の間の本質的なつながりと、疾病が人間とその食糧供給や経済だけでなく健全な環境と機能する生態系の維持に不可欠な生物多様性にも脅威を及ぼすことを認識すること。
- ・感染症の脅威に対する解決策をしようとする際には、生物多様性保全の視点と人間のニーズ（家畜衛生に関するものを含む）を十分に統合する機会を追求すること。

その上で、以下を述べた上で同宣言は締めくくられている。

グローバル化した今日の世界では、新たに生じる疾病や再び出現する疾病を防ぐのに十分な知識と資源を単独で持つ分野や社会セクターはないことは明白であり、単独で人や動物の健康を損なう生息地の損失や絶滅のパターンを改めることができる国もない。人、家畜、野生生物の健康と生態系の健全性に係る多くの深刻な課題を解決するために必要な技術革新と専門知識を引き出すことは、組織、個人、専門分野、セクターの垣根を取り払うことによるのみ可能となる。今日の脅威と明日の問題は、昨日のアプローチでは解決できない。我々は「一つの世界、一つの健康」の時代に生きており、間違いなく将来に横たわっている課題に対し、順応的で前向きかつ学際的な解決策を考案しなければならない。

引用文献等

-
- ⁱ Evans BR, Leighton FA. A history of One Health. *Rev Sci Tech*. 2014 Aug;33(2):413-20
- ⁱⁱ World Bank, 2012. *People, Pathogens and Our Planet : The Economics of One Health*. Washington, DC
- ⁱⁱⁱ 米国疾病予防管理センター (CDC) ウェブサイト : One health Basics
<https://www.cdc.gov/onehealth/basics/history/index.html> (2020年12月4日アクセス)
- ^{iv} Nielsen, Kaare & Gjoen, Tor & staff, Nana & Lunestad, Bjorn & Yazdankhah, & Ytrehus, Bjornar & Godfroid, Jacques & Jelmert, Anders & Klein, Joern & Okoli, Arinze & Arne, Tronsmo,. (2018). Antimicrobial resistance in wildlife - potential for dissemination. Opinion of the Panel on Microbial Ecology of the Norwegian Scientific Committee for Food and Environment.
- ^v What is 'One Health'? <https://www.who.int/news-room/q-a-detail/one-health> (2020年11月17日アクセス))
- ^{vi} World Health Organization (WHO), Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO) and World Organisation for Animal Health (OIE), 2019. *Taking a Multisectoral, One Health Approach: A Tripartite Guide to Addressing Zoonotic Diseases in Countries*.
<https://extranet.who.int/sph/docs/file/3853>)
- ^{vii} 厚生労働省. 令和3年度予算概算要求の主要事項
- ^{viii} 農林水産省. “ワンヘルス”による動物疾病対策・食料安全保障強化事業. 令和3年度予算概算要求資料
- ^{ix} IPBES (2020) Workshop Report on Biodiversity and Pandemics of the Intergovernmental Platform on Biodiversity and Ecosystem Services. Daszak, P., das Neves, C., Amuasi, J., Hayman, D., Kuiken, T., Roche, B., Zambrana-Torrel, C., Buss, P., Dunderova, H., Feferholtz, Y., Foldvari, G., Igbino, E., Junglen, S., Liu, Q., Suzan, G., Uhart, M., Wannous, C., Woolaston, K., Mosig Reidl, P., O'Brien, K., Pascual, U., Stoett, P., Li, H., Ngo, H. T., IPBES secretariat, Bonn, Germany, DOI:10.5281/zenodo.4147317.
- ^x CBD, 2017. GUIDANCE ON INTEGRATING BIODIVERSITY CONSIDERATIONS INTO ONE HEALTH APPROACHES (CBD/SBSTTA/21/9)
- ^{xi} World Health Organization and Secretariat of the Convention on Biological Diversity, 2015. *Connecting global priorities: biodiversity and human health: a state of knowledge review*.
- ^{xii} WHO (2005). *Ecosystems and human well-being : health synthesis : a report of the Millennium Ecosystem Assessment / Core writing team: Carlos Corvalan, Simon Hales, Anthony McMichael ; extended writing team: Colin Butler ... [et al.] ; review editors: Jose Sarukhan ... [et al.]*.
- ^{xiii} One World, One Health: Building Interdisciplinary Bridges to Health in a Globalized World
http://www.oneworldonehealth.org/sept2004/owoh_sept04.html (2020年11月25日アクセス)